

2022年度 大学院奨励研究員研究報告書

2023年 3月 31日

関西学院大学学長 殿

奨励研究員

氏名	高峰	印
----	----	---

指導教員

所属・職名	建築学部 教授	
氏名	角野 幸博	印

以下のとおり、報告いたします。

研究課題	中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究
採用期間	2022年 4月 1日 ～ 2023年 3月 31日

研究科委員長・研究科長 印	事務局印

提出先： 所属研究科事務

※所属研究科→研究推進社会連携機構（大学院）

研究発表状況（奨励研究員採用期間内に発表したものおよび、近く発表予定のもの）

(1) 学会誌等への発表（著者、発表論文名、学会誌名、巻号、発表年月、掲載頁等）

雑誌論文	著者名		論文題目			
	雑誌名			巻号	発行年月	掲載頁

雑誌論文	著者名		論文題目			
	雑誌名			巻号	発行年月	掲載頁

図書	著者名		論文題目			
	書名			発行年月	頁	
					総頁：	
	担当箇所：					

※論文題目：共著の場合の担当部分のタイトル

(2) 学会発表（口頭・ポスター：学会名、開催地、発表論文名、発表年月日等）

学会名	2023年度日本建築学会大会（近畿）	開催地	京都大学 吉田キャンパス
題目	中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 —その5 大鮑島地区におけるドイツ統治期初期の里院街区の形成と変容—	発表年月日	2023/09/12～09/15 (22年度中に投稿済)

学会名	2023年度日本建築学会大会（近畿）	開催地	京都大学 吉田キャンパス
題目	中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 —その6 大鮑島地区におけるドイツ統治期後期の里院街区の形成と変容—	発表年月日	2023/09/12～09/15 (22年度中に投稿済)

学会名		開催地	
題目		発表年月日	

研究経過状況（3000字程度）

私の研究テーマは中国、青島市において植民地期に形成された「里院Liyuan」と呼ばれる中国人向けの住宅建築を対象とし、里院建築および里院建築地区の形成と変容、空間的特質等について明らかにし、歴史遺産としての里院建築の再生について検討するものである。

かつてドイツの租借地として都市開発が行われた青島では、植民地期に中国人の居住地区において「里院 Liyuan」と呼ばれる独特な住宅建築が形成された。「里」は「街区」を、「院」は「庭」を意味し、西洋的なファサードを持ち中庭を囲むように街区内で連続的に建てられる建築形式と、中国の伝統的な四合院建築の構成が融合した華洋折衷の建築とされ、青島の植民地期を象徴する建築形式の一つとなっている。青島の里院建築は、最盛期には700棟以上あったとされるが、2000年代初頭の再開発などにおいて、新たな住宅建設のために多数の里院建築が取り壊され、その数は約300棟にまで減ったとされる。一方で2006年以降には、植民地時代の都市の歴史を残すべく、青島市政府が主体となり、100年以上の歴史を有する里院建築地区をすぐれた歴史遺産として保存再生させるプロジェクトが進行中である。その過程で、2014年より、保存改修のため、市政府によって里院の住民移転と建築取用の措置が取られ、2020年5月から、再生施設として青島国際デザインセンター、里院博物館などが開館した。このような背景のなかで、青島における里院建築地区の形成・変容の歴史と、再生に関する現状および問題点を明らかにし、よりよい保存再生のための方策を検討することを大きな目的とし、青島において里院建築がまとまって建設された里院地区（大鮑島地区、大窯溝地区、小鮑島地区、小港地区および無棣路地区）を対象とし、青島市全域における里院建築および里院地区の形成、変容を明らかにし、再生に関する諸問題について考察する。

里院建築は近年まであまり注目されてこなかった経緯があり、中国政府も里院のような庶民住宅の保存再生を重視し始めたのは近年になってからである。そのため里院建築に関する研究の蓄積はそれほど多くはなく、建築空間としての特質についてもこれまで十分に議論、検討されてきたとは言えない。また、都市計画的な視点から里院建築地区の形成と変容を論じた研究はほとんどない状況であった。そのような背景の中で、本研究は、青島市全域を対象として里院建築および里院建築地区の形成、変容、空間的特質等を明らかにしようとするものである。主な研究視点は以下の通りである。①里院建築および里院建築地区の街区空間の空間的特質およびその変容プロセスの解明。②青島の都市形成プロセスと里院建築の形成、変容との関係。③青島市政府が中心となって推進している里院建築地区の再生プロジェクトの現状と課題の解明。

本研究は博士課程前期課程に在籍時の2018年より着手しており、青島市城市建设档案馆等における資料収集や、数次にわたる現地でのフィールド調査を実施してきた。博士課程後期課程進学後、コロナ禍により現地調査が一時できなくなってしまう時期があり、研究の進展に遅れが生じたが、D2在籍時の2021年8月より青島での現地調査を再開し、2022年4月までの9ヶ月間（途中2ヶ月の隔離期間含む）、青島市城市建设档案馆において大鮑島地区、大窯溝地区、小鮑島地区、小港地区、無棣路地区の1923 - 1970年の里院建築に関する建築確認申請書類を収集したほか、上記地区におけるフィールド調査を実施し、各地区の里院建築分布地図の作成および実測調査を実施した。

大学院奨励研究員に採用されたD3の2022年4月には日本へ帰国し、調査データの整理をおこない、その後、この1年は大鮑島地区の里院街区の形成と変容に関する分析考察を中心とした作業を進めた。特に里院街区形成初期にあたるドイツ統治期に焦点を当て、「ドイツ統治期の中国・青島市・大鮑島地区における里院街区の形成と変容に関する考察」と題した論文にまとめ、2023年2月に日本建築学会計画系論文集の査読論文として投稿し、現在査読中である。また、同様の内容を2023年度日本建築学会大会での学術講演として発表するために、「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 —その5 大鮑島地区におけるドイツ統治期初期の里院街区の形成と変容—」、「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 —その6

大鮑島地区におけるドイツ統治期後期の里院街区の形成と変容」という2本の発表原稿を提出した。当初の目標ではD3修了時に博士論文を完成させる予定であったが、D1時期のコロナ禍の影響が大きく、博士論文の完成を1年後に延長し、作業を継続しているところである。

2023年度には、5月に総合政策研究科にサーベイ論文を提出し、6月には日本統治期以降の大鮑島地区の里院街区の形成、変容をテーマとした第3編目となる査読論文を、10月には大鮑島地区以外の青島の里院建築の空間的特質をテーマとした第4編目となる査読論文（SCI論文を目標とする）を投稿すべく研究を進める。そして、それらの成果をまとめ、2023年11月には博士学位論文として提出する予定である。

これまでに学会等で発表した研究成果は以下の通りである。

【論文】

・「中国・青島市・大鮑島地区における里院建築の空間的特質とその変容」日本建築学会計画系論文集87巻792号、2022.2、pp.337-348

【研究発表】

・「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 その1 大鮑島地区における里院の類型」2019年度日本建築学会大会学術講演梗概集〔建築計画〕2019.7、pp.1401-1402

・「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 その2 大鮑島地区における里院建築の空間的特質とその変容」2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集〔建築計画〕2020.9、pp.329-330

・「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 その3 大鮑島地区における里院街区の構成とその変容」2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集〔建築計画〕2020.9、pp.331-332

・「中国・青島市・大鮑島地区の里院街区における敷地形態の変容」日本都市計画学会関西支部研究発表会講演梗概集19巻、2021.7、pp.69-72

・「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 その4 大鮑島地区における里院建築の住戸空間の変容」2021年度日本建築学会大会学術講演梗概集〔建築計画〕2021.7、pp.27-28

・「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 その5 大鮑島地区におけるドイツ統治期初期の里院街区の形成と変容」2023年度日本建築学会大会学術講演梗概集〔建築計画〕2023.9（発表原稿提出済）

・「中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究 その6 大鮑島地区におけるドイツ統治期後期の里院街区の形成と変容」2023年度日本建築学会大会学術講演梗概集〔建築計画〕2023.9（発表原稿提出済）